

# 脳しんとうに関する注意 教師、学校関係者用

## 重要事項

- ◆ すべての脳しんとうは重大である。
- ◆ ほとんどの脳しんとうは意識の消失をともなわない。
- ◆ 脳しんとうは最初に起きた時に認識し、適切に対処すれば、回復に資することができる。看過すると、さらなる損傷を起し、死亡に至ることさえある。

## 脳しんとうとはどのようなものか？

脳しんとうは脳の損傷のひとつで、そのために脳が正常に働かなくなった状態です。頭が衝撃や打撲を受けたり、激しく揺さぶられたりすると生じます。転倒や身体への強打によって頭と脳が前後左右に急速に動かされることによって生じることもあります。頭を軽く打っただけのように見えても、重症になることがあります。

児童生徒は脳しんとうを起こす危険性が最も高い年代です。脳しんとうを最も生じやすいのは、衝突が起きやすい活動中、たとえば、体育の授業中や休み時間、部活動のようなときです。しかし、児童生徒の頭が何か硬いもの、たとえば、床、机、または他の児童生徒の頭や身体などと接触するような時は、いつでも生じる可能性があります。脳しんとうを適切に認識し、対処することでさらなる損傷を防ぎ、回復を促す必要があります。

## 脳しんとうの所見や症状はどのようなものか？

脳しんとうの所見や症状は受傷直後から現れることもあります。数時間あるいは数日たってから現れたり、気づかれたりすることもあります。以下に述べる所見や症状が生じないか、注意して見ていてください。また、児童生徒の行動や感情に変化がないか、症状が悪化していないか、あるいは、とにかく、何かおかしいところがないかを気をつけて見てください。

## 教師や学校の専門家によって観察される所見

- ◇ ぼーっとしている、ぼんやりしている。
- ◇ できごとについて混乱している。
- ◇ 質問に対する答えが遅い。
- ◇ 同じ質問を繰り返す。
- ◇ 受傷前のことを思い出せない。
- ◇ 受傷後のことを思い出せない。
- ◇ 意識を失う(たとえ短時間でも)。
- ◇ 行動や様子がいつもと違う。
- ◇ 授業時間割や課題を忘れる。

## 児童生徒が訴える症状

### <思考 / 記憶>

- ◇ 筋道を立てて考えることが困難。
- ◇ 集中することや記憶することが困難。
- ◇ 頭の働きが遅く感じる。

- ◇ もうろうとする、もやもやする、ぼんやりする、ふらふらする感じ。

#### <身体>

- ◇ 頭が痛い、割れるような感じがする。
- ◇ 気分が悪い、吐き気がする、吐く。
- ◇ よろめく、ふらつく。
- ◇ 疲労または疲労感。
- ◇ ぼやけて見える、二重に(ダブって)見える。
- ◇ 光や音に敏感。
- ◇ しびれ感、ビリビリ、ピリピリした感じ。
- ◇ とにかく、何かおかしい。

#### <感情>

- ◇ いらいらする、怒りやすい。
- ◇ 悲しい、気がめいる、落ち込んでしまう。
- ◇ 普段より感情的。
- ◇ 神経質になっている。

#### <睡眠>\*

- ◇ うとうとしている。
- ◇ いつものように眠れない。
- ◇ いつも以上に眠ってしまう。
- ◇ 寝つきが悪い。

\*睡眠の症状は、前日以前に受傷した場合にのみ聞くこと。

### 脳しんとうの危険な所見は何か？

時間とともに症状が悪化する場合は警戒すべきです。以下のような所見が認められたら、直ちに病院を救急受診させてください。

- ◇ 瞳孔(目の中央の黒い部分)の大きさが左右で異なる。
- ◇ うとうとしている、起こしても起きない。
- ◇ 頭痛が一層ひどくなり、消えない。
- ◇ 力が入らない、感覚が鈍い、協調運動ができない。
- ◇ 嘔吐や吐き気を繰り返す。
- ◇ ろれつが回らない。
- ◇ 痙攣。
- ◇ 人または場所が認識できない。誰であるか、どこであるかがわからない。
- ◇ ますます混乱する、落ち着きがなくなる、興奮する。
- ◇ 奇異な行動。
- ◇ 意識消失(たとえ短時間でも深刻にとらえるべきである)。

**<注意>** 脳しんとうを起こした児童生徒は、受傷当日は、スポーツやレクレーション活動に**絶対**に復帰させてはいけません。脳しんとうに習熟した医師が、症状がないことを確認し、復帰を許可するまでは、活動を休ませなくてはなりません。

すなわち、許可が出るまでは以下のことに戻ってはなりません。

- ・体育の授業
- ・スポーツの練習や試合 または
- ・休憩時間における運動

# さらに詳しい情報や資料が必要なときには、以下のホームページをご覧ください。

[www.cdc.gov/Concussion](http://www.cdc.gov/Concussion)

## 脳しんとうを見逃さないためには？

教師やスクールカウンセラーが、児童生徒の異変に最初に気が付くことは少なくありません。所見や症状は発現するまでに時間がかかることがありますし、教室で集中したり、学習活動をしたりしているときに顕在化することがあるからです。

以下のようなときには、その疑いがあるときも含めて、児童生徒を専門医に診てもらってください。

1. いかなる種類のものであっても、頭部または身体に強い衝撃が加わり、その結果、頭が激しく動かされたとき、

それとともに

2. いかなるものであっても、児童生徒の行動、思考、あるいは身体機能に異変を認めた時。  
(症状所見の項を参照してください)

## 児童生徒が脳しんとう後に学校に復帰する際に、何を知っておくべきか？

脳しんとうからの回復過程にある児童生徒を支えていくには、教師やスクールカウンセラー、医療関係者および保護者が協力して対処する必要があります。回復期間中は一定の便宜をはかり、居場所を確保する必要があるからです。症状が持続するときは、関係者で会議を招集する必要があるかもしれません。一時的なものか、永続的なものかを問わず、何らかの遂行に支障を生じていれば、それに対する援助を検討すべきです。

注:原典では、「症状が持続するときは、504 会議を招集する必要があるかもしれません。一時的なものか、永続的なものかを問わず、何らかの遂行に支障を生じていれば、第 504 節計画を開始します。」と記されています。ここで、第 504 節 (Section 504; 正確には Section 504 of the Rehabilitation Act) とは、障がいを持つ子供がその障がいのために教育の機会を奪われたり、恩恵を受けられなかったり、差別を受けたりすることのないようにすることを規定した条文です (No otherwise qualified individual with a disability in the United States, as defined in section 7(20), shall, solely by reason of her or his disability, be excluded from the participation in, be denied the benefits of, or be subjected to discrimination under any program or activity receiving Federal financial assistance or under any program or activity conducted by any Executive agency or by the United States Postal Service.)。法体系は異なるにせよ、日本においても、脳しんとうの症状のために通常の授業についていくことが困難な児童生徒に対しては、関係者会議を開き、それに対する援助を検討すべきでしょう。

### <注意> 脳しんとう後の留意点

脳しんとうを起こした生徒が学業に復帰してきた際、各教師は以下の所見に注意しなければなりません。

- ◇ 今までと比べて、注意を傾けたり、集中したりするのが難しい。
- ◇ 今までと比べて、記憶や学習に困難を生じている。
- ◇ 課題の達成に今までよりも時間がかかる。
- ◇ 課題を体系づけて考えることが難しい。
- ◇ 不適切あるいは衝動的な行動が授業中に見られる。
- ◇ 些細なことに過敏に反応する。
- ◇ ストレスに対してうまく対処できない、感情的になりやすい。

児童生徒のために提供あるいは対処すべきものとして、言語療法、環境の調整、教育課程の一部変更、あるいは行動を通しての指導などがあります。

児童生徒は脳しんとうからの回復過程にある間、活動を制限する必要があるかもしれません。学習、コンピュータの操作、あるいはテレビゲームのような集中を要する活動や訓練によって、脳しんとうの症状(頭痛、倦怠感など)が再現したり、悪化することがあります。

児童生徒が脳しんとうを起こしたのちに学校に復帰してきたら、以下のような措置が必要になることがあります。

- ◇ 必要に応じて休息をとる。
- ◇ 学校で過ごす時間を減らす
- ◇ 試験の解答、課題の達成に余分な時間を与える。
- ◇ 学習等に何らかの援助をする。
- ◇ コンピュータの操作や、読んだり書いたりする時間を減らす。

児童生徒は、遊びや運動にすぐに戻れなかったり、学業が遅れてしまったりすることで、いらいらしたり、気分が落ち込んだり、怒りを感じることもさえます。同級生や社会的つながりから切り離され、孤立しているように感じることもあります。これらの問題について、生徒とよく話をし、共感し、支持してください。症状が軽減するにしたがって、援助や支持を徐々に減らしていくことはできます。

原典: A Fact Sheet for Teachers, Counselors, and School Professionals

[http://www.cdc.gov/concussion/pdf/TBI\\_factsheet\\_TEACHERS-508-a.pdf](http://www.cdc.gov/concussion/pdf/TBI_factsheet_TEACHERS-508-a.pdf)

参考:A Fact Sheet for COACHES

[http://www.cdc.gov/ConcussionInYouthSports/images/coaches\\_Engl.pdf](http://www.cdc.gov/ConcussionInYouthSports/images/coaches_Engl.pdf)